

横浜市小学校社会科研究会 学年部会 <b>研修会記録</b>	令和5年 12月 6日 横浜市小学校教育研究会 会長 濱田 哲也 横浜市小学校社会科研究会 会長 加藤 和之 同 学年部長 宮原 美由紀
	第 6 号

【提案日時】 11月1日（水）	提案 名畑 慧大先生（原小）
【会 場】 平沼小	司会 益満 順也先生（羽沢小） 記録 田中 晃祐先生（あざみ野第二小）

**【指導案検討】**

単元名 「食料品をつくる工業～地域とともに成長するM社の取り組み～」

**【授業者より】**

- ・中心にポン酢に着目した単元計画に変更
- ・児童は水産業から寿司に着目⇒酢に着目
- ・ポン酢の生産→今の社会で求められているものが変化していることに気付かせたい。
- ・ジャストタイム方式⇒大量生産、大量生産効率的にしている。

**【本時】**

○社会の変化にM社がどう対応しているのかを考える時間にしたいという思い。  
地域・料理・社会のニーズに合わせて、味を変えている。ラインなどで見えるような単元にする。  
 ボトルの大きさなどに着目すると生産ラインなどが分かりやすい。

○資料について

- ・工場が増えている資料 →並べて見えるようにする（年表など）
- ・工場のビフォーアフターを並べる（地図）  
 商品のラインナップを増やすには？→社会の変化に対応～前時までに工場などの工夫を分かるようにする  
 →工業の話にしていくことで一般化にしていく

**【校長先生から】**

単元イメージ図

① 酢がたくさん売れている。

酢はどのやって作られているのだろう

製造 ジャストインタイム方式→時間短縮      昔 人の手      現在 機械→安定・人件費削減

食味検査 味は人！なんで？

理由①・理由② いくつかの理由がある。

言わない理由

味はブランディング

なぜ、味を変えるの？→トップシェアとしての企業の責任

導入でどうやって  
 子供に興味・感心  
 を持たせる？

文責 田中 晃祐先生（あざみ野第二小）

【提案日時】 11月 1日 (水)	提案 志村 竜乃介先生 (大綱小)
【会場】 平沼小学校	司会 栗田 一輝 先生 (本町小)
	記録 杉内 翔太 先生 (川和小)

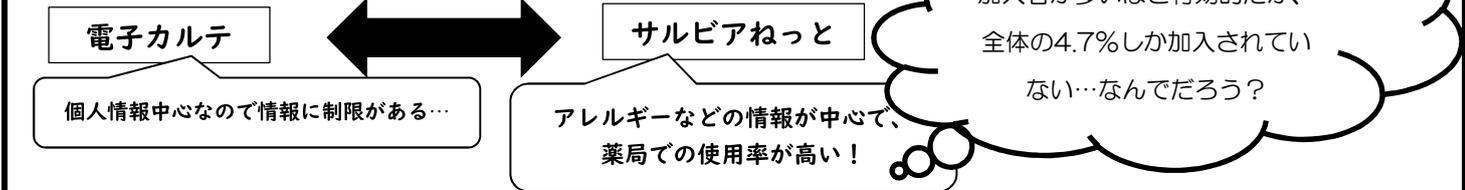
**【指導案検討】**

単元名「くらしと産業を変える情報通信技術～私たちの健康を支える情報通信技術～」

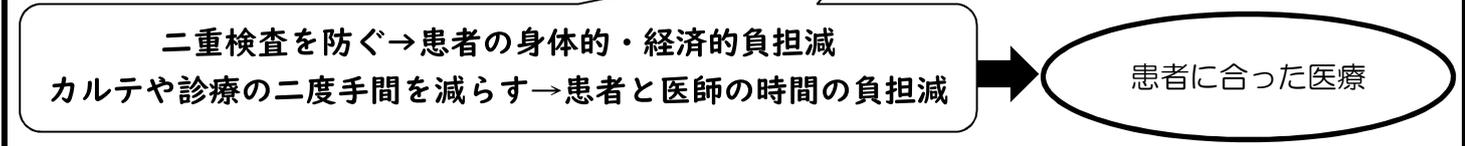
**【提案者より】**

前回の指導案検討で見た「人の営み」が見えにくい部分を改善するために、新しく「A医師」と出会えた。  
A医師・・・「不便だけどサルビアねっとを使い続けたい!」 ← まだ発展途上のもので、医療にとってよいものだから。

**【単元と本時について】**



医師の立場では、アレルギーの情報が分かるだけで価値がある。⇔ 病院側の立場では、個人情報を扱う難しさ  
本時では、情報通信技術の活用が、『国民生活の利便性の向上』や『よりよい医療』につながっていることを表現できることを目指す。



**【抽出見について】**

- I 児・・・自分の中で考えを表現できても、他者と交流しながらの学び合いに課題がある。  
→医療従事者(保護者)にインタビューしたり、先生と一緒に調べたりしながら、サルビアねっとへの思いを高める。
- II 児・・・端末での学習には意欲的だが、学習に身が入らないことが多い。  
→シンキングツールを活用して、自分の考えを整理できるようにする。

**【講師の先生より】**

- 瀬谷さくら小学校 場家 誠 校長先生
- ・どの子どもたちも「サルビアねっとが広がるといいな」と思える単元になっている。
  - ・不便さやそれぞれの立場でメリットを考えながら、サルビアねっとへの思いをもてるようにしていけるとよい。  
→ 順番は難しい、子どもたちと一緒に進めながら、確認しながら。
  - ・前単元で、情報の悪用の危険性を番組作りと関連させて理解しておけると、本時の多角的な見方につながる。
  - ・出口としては、「どうやったら、サルビアねっとが広がるか。」 → 主権者教育の意義
  - ・あまり難しいことをせず、I 児やII 児が語れるような授業を期待したい。

文責 杉内 翔太 (川和小)

発 杉内 翔太 (川和小)